様式第６号の１１　　その１

学番	7	新潟北高等学校

令和４年度　　学校自己評価表（報告）

学　校　運　営　計　画		
学 校 運 営 方 針	○　豊かな人間性の育成をめざし、一人ひとりを生かす教育を推進する。 ※　この実現に向けて、教職員一丸となって生徒に関わる学校にする。	
昨年度の成果と課題	**年度の重点目標**	**具体的目標**
教職員全体で、基礎学力の定着や、進路指導、生徒指導に組織的に取り組んだ。その結果、就職内定率100%を実現した。また、臨時休校時にはオンライン授業によって生徒の学びを止めない取り組みを行った。全職員による生徒指導をさらに徹徹し、安全・安心な学校づくりを推進する。	○基礎学力の養成	・基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ態度を育成して主体的に生き抜く力を養成する。
	○基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成	・社会で通用する礼節を身につけ、おもいやりと、人に関わる力を持った自立できる生徒を育成する。
	○進路希望の実現	・生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒の進路希望の実現を果たす。
	○開かれた学校づくりの推進	・地域と連携した教育の推進と、地域に信頼される学校づくりを行う。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
基礎学力の養成	基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ態度を育成して主体的に生き抜く力を養成する。	・教科書を中心とした学習内容の定着を確認しながら授業を展開し、教科ごとの基本的な見方や考え方を体得させるとともに、放課後等に個別指導や補習等を展開する。	A	A	B
		・生徒が興味関心を持つよう授業実践に工夫を加え、学習意欲を喚起させるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う。また、学習評価を通じて学習指導の在り方を見直し、個に応じた指導の充実を図る。	A		
		・予習復習の徹底と家庭学習の習慣化を図るため、家庭で取り組む課題を設定し、基礎学力の定着と向上を目指す。	B		
		・個々の生徒の発達段階に応じて、知識と技能を積み重ねることができるよう支援するなどきめ細やかな指導を行い、計画的な履修に努める。	B		
		・総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間等を通じて積極的・主体的な態度を養い、生活に必要な知識・技能の習得、豊かな感性や情操の育成及び体力の向上を図る。	B	B	
基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成	社会で通用する礼節を身につけ、おもいやりと、人に関わる力を持った自立できる生徒を育成する。	・教職員の同和教育・人権教育への意識を高めるために、教員対象の研修会を複数回実施する。多くの教職員が各種同和教育研修会に参加し、研修内容を教職員および生徒に確実に還元する機会を設定する。	B	B	A
		・生徒対象の同和教育講演会を年２回実施し、生徒の人権意識を高める。	B		
		・LHR や総合学習における教職員の同和教育・人権教育の実践力を高めるために、具体的な指導計画の策定を推進し、指導資料の充実を図る。	B		
		・スクールカウンセラーの活用等、教育相談をより一層充実させ生徒を支援する。	A	A	
		・研修の機会を活用し、特別支援教育への理解に努める。	A		
		・各部と連携し、いじめアンケートを月１回実施し、「いじめ見逃し」を０にする。組織的な対応で対策に取り組み、集会や LHR で啓発活動をする。	A	A	
		・遅刻者指導、頭髪指導を活用し、基本的な生活習慣を確立するとともに規範意識を醸成する。	B		
		・予防的な指導を重視し、きまりを守る態度を育成するとともに問題行動を未然防止する。	A		
		・カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立った指導をする。	A		

		・HR や集会等で、持ち物の自己管理を徹底させる。	A	A	
		・集会や LHR をとおして新潟北高の一員として自覚を促すとともに、事例をとおして問題行動に対する責任や自己実現等について指導する。	A		
		・月１回「保健だより」を発行し、感染症等に関する情報の提供と予防策を周知させるとともに、健康・安全についての情報を提供する。	A	A	
		・健康(性)に関する保健講話を各学年、年１回実施し、自覚を促す。	A		
		・地域の模範となる清掃活動等をとおして、全生徒・全教職員が地域から信頼される学校づくりに努める。	B	A	
		・校内の美化のため、大清掃・通常清掃を徹底する。	A		
		・ゴミの分別の徹底化を図り、校内エコを積極的に推進する。	A		
		・生徒会や HR 活動に積極的に参加できる環境を整え、登録生徒が継続して部活動に取り組めるよう指導を工夫し、教職員が一致協力する。	B	A	
		・体育祭や球技大会を通じて、クラスで力を合わせ、競技や応援に一生懸命取り組む姿勢を育む。	A		
進路希望の実現	生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒の進路希望の実現を果たす。	・「生徒が進路決定をするための自己の能力、適性の認識及び開発に係ること」ならびに「生徒の興味・関心について」の研究を推進する。	A	A	A
		・外部講師による講演の実施、インターンシップの実施、体験的学習等をとおして、キャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識を向上させる。	A		
		・時宜にかなった進路情報を、学年だよりをとおして生徒および保護者に提供する。	A		
		・遅刻防止や基本的生活習慣の確立を図りつつ、学習習慣及び基礎学力が定着するよう全校をあげて取り組む。	A	A	
		・個人面談を学期に１人１回以上行い、生徒との信頼関係を築くとともに保護者と緊密に連携し、生徒の情報を共有する。	A		
		・多様な進路希望に応じた資格試験、検定試験受験を推進し、受験率を前年比 10%アップさせ合格者を増やす。	B	B	
		・進路希望に応じ模擬試験を１人あたり１、２年生は２回、３年生は３回以上受験させる。	B		
		・各人の進路希望達成に向け、進路指導部、各学年や教科と連携するなど全校あげて取り組み、面接指導を１人最低３回以上実施する。	A	A	
		・各教科と連携して、進路希望に応じた小論文指導を実施する。	A		
開かれた学校づくりの推進	地域と連携した教育の推進と、地域に信頼される学校づくりを行う。	・地域と連携した交流活動に積極的に取り組む態度を養う。	B	B	B
		・県立幼稚園や県立大学等の異校種と積極的な交流を図るとともに、地域と連携した本校オンリーワンスクールの取組を推進する。	B		
		・PTA 総会、学年 PTA、PTA 行事等の出席率を増加させる。	B	B	
		・公開授業の周知を徹底し、参加者を増加させる。	B	B	
		・ホームページを積極的に活用し、各種便り等を随時に発行することによって指導方針等を広く発信し、本校の実情等を周知する。	B	B	
		・保護者との年２回以上の懇談を通じ、子どものために何ができるかを共に考えられる関係を築く。	A	A	
成果	電子黒板と生徒用タブレット端末の整備が進み、これらを生かした授業の工夫・改善が進んだ。また、個別の丁寧な進路指導の結果、就職内定率 100%を達成することができた。進学者も含めて、生徒の進路実現に向けた取組みの成果を発揮することができた。生徒指導については、いじめを含め、生徒の問題行動に対する早期対応に努めた。		総合評価 A		